

## 第 2 回

# 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

令和 5 年 3 月 22 日

## 会議要録

## 令和4年度 第2回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	令和4年度 第2回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局(担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	令和5年3月22日(水) 15:00~17:00	
開催場所	島田市役所4階第3委員会室	
議題	<協議事項> 第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について <報告事項> 令和4(2022)年における島田市の人口動向について	
出席者	創生市民会議 構成員	・島田市自治会連合会参与 竹林 健次郎 ・島田青年会議所理事長 松山 寿明 ・(株)FM島田代表取締役 八木 和夫 ・島田市小中学校PTA連絡協議会会長 片川 範之 ・NPOクロスメディアしまだ理事長 大石 歩真(欠席) ・島田商工会議所副会頭 鈴木 國近 ・島田市商工会会長 岡村 修 ・島田市観光協会理事 西村 孝明(代理出席 本部長 鈴木 将之) ・島田市農業経営振興会会長 鈴木 聡 ・島田工業高等学校校長 石川 徹 ・島田市校長会副会長 山本 訓之 ・島田掛川信用金庫地方創生部長 鈴木 康司 ・島田榛北地区労働者福祉協議会会長 樋熊 敦志 ・島田公共職業安定所所長 成岡 和子 ・静岡県立大学経営情報学部2年 八峠 友香(欠席) ・島田商業高等学校3年 望月 柚香 ・島田商業高等学校3年 柴本 楓葵 ・島田市市長 染谷 絹代
	オブザーバー	静岡県中部地域局長 鈴木 史朗
	市関係者	・島田市副市長 牛尾 伸吾 ・島田市教育長 山中 史章 ・島田市市長戦略部長 今村 重則
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 課長 中村 広史      課長補佐 小野 晶規 係長 大石 一晴      主査 杉山 知史 主事 永田 章二

配付資料	・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員名簿 ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表 【資料1】「デジタル田園都市国家構想」について 【資料2】 デジタル田園都市国家構想総合戦略(2023年度~2027年度) 【資料3】 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略とデジタル田園都市国家構想総合戦略の比較 【資料4】 第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要 【資料5】 島田市デジタル田園都市国家構想総合戦略(仮称)の策定方針について 【資料6】 島田市デジタル田園都市国家構想総合戦略(仮称)改訂スケジュール(案) 【資料7】 令和4(2022)年における島田市の人口動向 【資料8】 転入者・転出者アンケート結果について
------	--

<開会の挨拶>

○市長戦略部長

皆様、御多用の所、御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます島田市市長戦略部長の今村と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、ただ今から、「令和4年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。

はじめに、島田市長の染谷から、御挨拶を申しあげます。染谷市長よろしく願いいたします。

○市長

皆様、こんにちは。

このところ、春の陽気と言いましても、もう5月に近いかなと言うような麗らかな日が続いております。

本日は御多用の中、島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

この会議は、今年度2回目の開催となります。

前回は、8月22日に開催しておりまして、「第2期総合戦略」の進捗に関する評価、検証について、皆様から御意見をいただいたところ です。

令和3年度における第2期総合戦略の取組に関しては、「コロナ禍が続く中で基準値を上回る項目が6割を超え、着実に推進している」との評価をいただきました。

人口減少の状況、課題等を踏まえながら、引き続き、本市の特性や魅力を生かした施策展開を図っていきたいと考えております。

日本全国における令和4年の出生数は、統計開始以来、初めて80万人を下回るという結果が出ております。

コロナ禍が長引く中、感染への不安や経済状況の懸念などから、結婚や妊娠を控えるケースもあったのではないかと想像しますが、想定を超えるスピードで少子化が進んでおります。

本市においても出生数は減少しておりまして、令和4年の出生数は553人でありました。

令和3年の出生数が613人でしたので、60人減ってしまったという結果となりました。

また、この春、成人式を迎えた方は1,018人おりましたので、半減に近い状況になっているというところでございます。

少子化対策は喫緊の重要課題であります。子ども・子育て政策を施策の重要な柱として、これまで以上に重点的に取り組んでいきたいと考えております。

さて、本日の会議では、まず、「第2次島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂」について、御協議いただきます。

国は、昨年12月に「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定しました。

テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢が大きく変化している中で、デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化させ、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」

を目指していくというものです。  
今回策定された国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を勘案し、総合戦略を改訂していきたいと考えておりますので、皆様から御意見を頂戴したいと思います。  
その後「令和4年における島田市の人口動向」について、御報告させていただきたいと考えております。  
限られた時間ではございますが、本日は、様々な観点からの御意見や御提言をいただくことで、この会議を有意義なものとする事ができるよう、皆様のお力添えを賜ることをお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。  
本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○市長戦略部長 ありがとうございます。  
今回初めての参加される構成員の方がいらっしゃいますので、自己紹介をお願いしたいと思います。

(自己紹介)

島田掛川信用金庫 鈴木 康司 様

○市長戦略部長 ありがとうございます。  
また、島田青年会議所理事長 松山 寿明 様が新たに構成員となっていておりましたが、本日は少し遅れる連絡をいただいておりますので、紹介とさせていただきます。  
なお、本日は、NPOクロスメディアしまだ理事長の 大石 歩真様、静岡県立大学経営情報学部の 八峠 友香 様が、所用により欠席となっております。  
それでは、次第に沿って、早速、議事に入っていきたいと思います。議事を進めるにあたり、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議設置要綱」第3条の規定に基づきまして、議長を染谷市長にお願いしたいと思います。  
市長、よろしく願いいたします。

<議事（協議事項）(1)>

○市長 それではしばらくの間、議長を務めさせていただきますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。  
本日の議事は、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する協議事項が1点、報告事項が1点ございます。  
まず、はじめに、協議事項の(1)「第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について」、まずは資料1～4について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料1～4の説明

第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について説明  
・ デジタル田園都市国家構想について説明  
・ 国のデジタル田園都市国家構想総合戦略の説明

- ・ 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略とデジタル田園都市国家構想総合戦略との比較
- ・ デジタル田園都市国家構想総合戦略の目標と具体的な施策を、第2次島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に当てはめたときのイメージ

○市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はありませんか。

意見なし

○市長 続きまして、**資料5、6**について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 **資料5、6**の説明  
第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について説明  
・ 島田市デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）の策定方針  
・ 改訂スケジュール

○市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はありませんか。

意見なし

<議事（報告事項）>

○市長 続きまして、報告事項として「令和4（2022）年における島田市の人口動向について」事務局から説明をお願いします。

○事務局 **資料7、8**の説明  
地方創生推進の効果や進捗を測るため、令和4年の島田市の人口動向結果と転入者・転出者アンケートによる社会動態のきっかけや理由の傾向について説明  
・ 令和4年の人口動向の説明  
・ 転入者・転出者アンケート結果の説明

○市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等ありませんか。  
転出は10歳代後半と80歳代前半が増加しておりますが、10歳代後半は進学や就職のため、80歳代前半はおそらく施設に入ることの中で、住民票の異動があるのではないかと思います。

○A構成員 人口の問題は一朝一夕に解決する問題ではない。  
本通二丁目で小学校に通うのは1人しかいない。  
結婚適齢期の若い人たちも近くにあまりいない。  
根本的に解決するような施策があれば、徹底的にやってもらって、少しでも人口が増えれば良いなと思う。  
子どもはどこ地域でも減ってきてしまっている。  
今の子どもたちや若い人たちが結婚したくなるような長期的な視点に立った施策を考えてもらい、若い人たちの理解が得られれば、結

婚して子どもが増えてくることになると思う。

日本全国で人口減少の歯止めがかからない状況であり、島田市が増えても他の市町が減ってしまうため、お互いの市町で人を取り合うよりも、その町自身で人口を増やすことを考えていかななくてはならない。

東京一極集中も是正できていない。

○市長

人口が増えている六合地区や初倉地区は、分譲地がたくさんできています。

若い人たちの中には、新しいところに住んで、みんな一緒にスタートしたいという考え方があるようです。

進学等で一旦外に出た場合、男性は割と戻ってくるが、女性が戻ってくる率が少ないというのが課題であります。

○B 構成員

人口が減るから、いかに増やすかということにフォーカスしてしまうが、人口を増やすのは現実的ではない。

まちをコンパクトにすることに目を向けていけないといけない。

人口が増えている市町村も全国的にはあると思うが、そういった所に倣っても地政学的にも異なり、島田市が成功するかは分からない。人口が減った時にどう対応していくかを、考えていかななくてはならない。

○市長

日本中の人口が減っていく中において、人口を増やすというよりも、今の人口をできるだけ維持していくこと、あるいは、だんだん人口が減ってくる社会にどう対応するという視点は、より重要になってきています。

コンパクト・プラス・ネットワークの考え方、立地適正化計画などを踏まえて、地域の拠点をつくり、拠点を結ぶという考え方が必要です。

○事務局

最近の課題として、分譲地に住みたい方が増えている一方で、空き家が増えてきているということがあります。

街中の空き家をマッチングして使えるようにしていくことも市として進めています。

地域との関り合いも、人口が減ってくると薄くなってしまいます。高校生などが地元を好きになってもらうと街に元気が出てきます。時間を掛けながら、ゆるやかに街を拠点に集約していくことに取り組んでいるところです。

これまで観光的な要素については取り組んでいませんでしたが、空港があるという立地の中で、大井川流域を中心に強化していきます。

目に見える成果としては、蓬莱橋周辺や KADODE OOIGAWA があります。

様々な施策を合わせ、時間をかけながら、街を集約するということに取り組んでおります。

- C 構成員 人の確保は非常に重要。  
働く場所がないとそこに人が住まない。  
人材難によって今ある企業も存続できない。  
川根地区は特に事業者数が減っている。  
そこに住みながら仕事をするのが無ければ、そこから出ざるを得ない。  
素晴らしい観光資源があるので、新たな観光産業を作り上げないともったいない。  
観光資源を生かすような施策を行って、働く場所を作っていく。  
金谷地区については、外国人が増えているということだが、実感する。人手不足ということもあるので、外国人をどんどん受け入れたらいいのではないかと思う。  
グローバル化して、外国人労働者を積極的に受け入れて、日本人とも共存してもらおう。  
結婚の問題は、結婚について意味を持たなかったり、家族というものを実感していなかったり、面倒くさいという感覚になっている若い人たちが多くなっているのが現実。  
離婚率は資料に載っていないが、どの程度あるのか。  
離婚はエネルギーがいるため、離婚するのに苦労するなら結婚しない方がいいという考え方にもなってしまう。
- 市長 離婚率の統計はありますか。
- 事務局 厚生労働省の人口動態調査によると、令和3年12月31日現在の島田市の離婚率は、人口1,000人あたり1.14件。  
1年間の婚姻件数が311件、離婚件数が111件となっています。
- 市長 外国人の話がありましたが、島田市の国籍別人口で最も増えているのはベトナム国籍の方、次にネパール国籍の方です。  
インドネシア、中国、フィリピンなど、様々な国の方がいらっしゃる中で、島田市としても多文化共生について、ゴミの出し方、病院の掛かり方、自治会とのつきあい、防災ことなど、それぞれの国の人たちのコミュニティに行政が関わって、つながりを作っていくと思っています。
- D 構成員 人手不足には、高齢者の再雇用、子育てが終わった女性、外国人の3つ。DXで比較的楽になっているので、足りない人材をこの3つの視点で確保している。  
街をコンパクトにするということで、都市の経営について、無駄を省いてもう少しコンパクトにしていく時代ではないか。  
平成の大合併で自治体の数は減ったが、旧の自治体の公共施設がたくさん残っている。  
島田だけじゃなく、志太榛原、さらに静岡県など大きな枠で考えていくようにした方が良いと思う。

- 市長 公共施設の再配置については待ったなしの状況です。  
中学校区ごとに社会教育施設や公共の財産がどのくらいあるのか洗い出して、適正配置という視点で見直しをしていきたいと考えています。  
この話をするとみなさん賛成してくれますが、自分の地区の具体的な話になると反対が出てきます。  
具体的な話になると難しい課題が出てきますが、市の方向性としては公共施設の適正配置の方向ですので、理解をいただきながら進めていきたいと考えております。
- E 構成員 この会議は人口の問題が大きなテーマ。  
島田市は交通網が良く、新東名高速道路島田金谷IC周辺で企業誘致している。  
働く場所がないと人口が増えない。  
定住人口を増やすのは大変だと思うが、市外からでも通勤してもらえば昼間人口は増え、それに係る経済効果も多少はあると思う。  
島田市が努力しているのは承知しているが、企業誘致の考え方はどうか。
- 牛尾副市長 KADODE 001GAWA 周辺を中心に企業誘致を進めています。  
大井川沿いの土地から誘致を進めておりますが、次は牛尾山の高台のところを進めていきます。  
新東名高速道路島田金谷IC周辺の地域の土地をすべて買収して造成するとなると大掛かりになってしまうため、道路や水路など基盤的な施設を市が整備して、民間活力で土地利用していただき。開発を進めていきます。  
誘致した企業に対しては、土地の取得費に対する補助や雇用創出に協力していただいた場合に補助金を出しています。
- F 構成員 未婚率は青年会議所で見るとかなりひどい状況。  
子育てに対する不安や結婚はしたくないが子どもは欲しいという考え方もいる。  
経済的な不安を取り除いたり、出会いの場も行政と一緒に協力してやったりしていきたい。  
コンパクト・プラス・ネットワークのように、戦略的に人口密度を上げていくことは良いと思う。  
点在している方々を集めて、その中で新たな企業を誘致して街を活性化させていく。  
それをやるには大きな課題があると思うが、防災的にも強みになるので、是非推進してもらいたい。
- 市長 日本が少子化になって30年が経ちます。  
30年間、ずっと人口減少対策を行ってきておりますが、全く効果がない中で、異次元の少子化対策と国は表現しています。



妊娠・出産をするのに適した年齢の女性に対して支援をするだけでは、出生率は上がりません。

社会の中にある将来に対する漠然とした不安、子どもにお金がかかる、自由に生きたいなど、様々な価値観も含めた総合的な土壌が子どもを生む方向に向いておりません。

若い人たちの価値観を変えていくような取組が無いといけません。国としても教育費にお金が掛からないようにしていかなければならないと思います。

給食費の無償化については、現在、材料費しかもらってなくて、その予算は約4億3千万円であり、市が単独で無償化するなら他の政策を抑え、約4億3千万円をこちらへ持ってこなくてはなりません。

それよりも、学校施設の老朽化、ICT化、支援員などを優先して力を入れております。

本来、教育に関わる費用は、国が負担すべきだと思います。

市町はそれぞれの地域の特性があるため、その特性に合った伴走型の支援をしていけば良いのではないかと思います。

こういったことに市町が力を入れ、都市間競争になると、自治体は疲弊してしまいます。

子育て世代や若い女性の方々から意見を聞く中で、これからどんな対策が必要なのかを探っていきたいと考えています。

○B 構成員 同じくらいの世代で、結婚して子どもを持つ夫婦、持たない夫婦といるが、子どもを持つ夫婦は、子どもに手も掛かり忙しくなるが、子どもを持たない夫婦は旅行に行ったりして不公平と話を聞く。子育ては本当に大変。

○市長 女性の方のほとんどが働きに出る時代になり、女性ばかりに負担がいくと何人も子どもを持つということになりません。社会全体としての理解が必要です。

○G 構成員 男女雇用機会均等法等の法律が整備されて、働く中での差別はないと思うが、年齢層が違えば意見の対立もあるし、男性も育児休業が取れるようになったので、夫婦で子育てをしていくという考えにシフトしていけば、出生も増えていくのではないかと思う。

○市長 男性が主体的に育児をしていくことが必要です。

○H 構成員 人口減少や 2025 年問題などが問題になっているが、農業に関しては 20 年来、ブームの先をいっている。農家は担い手が非常に少ない。島田市には農地が約 3,000ha あるが、農業をやめても農地は管理しなければいけないなど、農業は由々しき状況にある。そこでしかできないから、産業が生まれ、街ができる。島田市においては、お茶はここでしかできないもの。

日本の人口は減少しているが、世界人口は増えている。  
世界を見れば海外に人とお金があるため、輸出産業として農産物で  
外貨を稼ぐことが生き残りの形。

大井川流域で考えると日本でSLが走っている街はいくつも無い  
ため、農業プラス観光を組み合わせることでここにしかないもの  
売り出していくことも1つの方法。

外国人の受入もこれから結果を出す方法の1つだと思う。

- 市長 農地の集約と次の担い手にどうつないでいくか、海外への農業展開をどのように進めていくか、市としても課題として思っております。金谷地区にはお茶の若い担い手が多いように思います。若い担い手のネットワークや意見は、市全体に広がっていると感じています。
- H構成員 環境保全型の考え方として、農地の利用方法が変わってきている。例えば、企業と連携して、営農型太陽光発電によりクリーンエネルギーを生み出したり、有機残渣を肥料として使ってカーボンの畑に対する固着をしたりする取組がされている。企業はカーボンオフセットに関して非常に敏感になっている。企業誘致のために農地を活用するというのも1つの方法。
- 市長 カーボンクレジットは森林しか対象になっておりません。茶の木もツバキ科の木であるため、カーボンオフセットの対象に入れてもらいたいと考えています。お茶を作るだけでなく、環境問題に関連する農地や茶畑の使い方について考えていかなければならないと思っています。
- I構成員 学校として協力できる場所は、進路指導の中で地元企業への就職を勧めるというところ。進学の場合は、工業科のある大学が県内に少ないため、県外に行くことが多いが、卒業後は地元に戻ってくるように、地域を意識させるような活動ができればいいと思っている。高校生が地域の人たちと関わることで、地域の課題を知ったり、良さを知ったり、刺激をもらえる。授業だけでなく、色々な活動の中でできたらいいと思っている。
- 市長 高校生の時に、地域の活動や行政との連携など、なんらかのつながりを持つということが、いずれこの地域に戻ってくるきっかけになると思っています。
- J構成員 給食費について、校長会として給食費の無償化の要望をあげたことはない。経済的な理由により支援が必要な世帯に対する就学援助もやって、十分に賄っている。学校の現場も大きく変わってきていて、未来が変われば、育てなけ

ればならない子どもたちの資質能力も変わっていく。

新しい地元の学びもスタートしているところ。

多様性が非常に言われている中で、結婚は生計をともにするためにするもので、子どもを生むためにするものではないと教育現場でも言っている。

世界の人口が増えていて、島田でできることと言えば、門戸を開いて、日本人がイニシアチブを取って、外国人を労働力として利用していくようなマインドにしていかなければならないと思った。

30年以上教員やっているが、この4～5年、難しい時代に突入してしまったと感じている。

#### ○K 構成員

高校生の時にたくさんボランティアに参加して、島田市の良いところ、市民の良いところを知ることができた。

そういうきっかけがあれば、島田市で働きたいと思う人が増える。

歴代の先輩は就職率が高かったが、自分たちの世代では、進学と就職が半々で、いずれにしても島田市から出る人が多かった。

仕事を増やすことで、人も増えて活性化にもつながって、経済を回すという面で良いと思った。

働く場所をただ増やすだけでなく、増やしたことの情報発信をぜひしてほしい。

知らないから市外へ出てしまうことはもったいない。

島田市の良い所や、良い企業があることを情報発信してほしい。

#### ○市長

高校生を対象とした志太三市の企業訪問であったり、合同企業ガイダンスであったり、インターンシップを実施していただいたり、地元にもいい企業がたくさんあるということを知ってもらう機会があります。

ただ、情報が届いていないということがあるため、力を入れていきたいと思います。

#### ○L 構成員

私の友人も県外で進学する子が多い。

どうしたら県外に出た子たちが戻ってきて市内に就職するか考えたときに、島田市が生き生きしていることや、安心して住み続けられることが重要。

小さな子どもから高齢者の方まで、地域の方同士のつながりがあれば、安心して住んでいけると思う。

つながりを意識した施策や観光などをもっと発信していければ、県外からも分かってもらえて、島田市に戻ってくる人が多くなると思う。

#### ○M 構成員

産業の掘り起こしや仕事を生み出すということを期待され、観光が昔と違って産業に密接するところにきている。

観光は、認知を上げて交流客を増やすことが目的で、各事業者や地域の人たちがサービスを展開し、地域経済を潤していくイメージだったが、観光地全体を一体的に情報発信したり、交流客に対し紹介

したりする仕組みを作ろうとしている中で、DXが活用できるのではないかと考えている。

DXを活用していく中で、今のこのエリアがどういう状態なのかということが重要。

既に観光地として認知されているエリアであれば、活用するデジタルの技術も他の地域と差別化を図ることを展開していくことになると思うが、島田市の場合はまずは旅先として知っていただく、選んでいただくことを重要視し、デジタルを活用して情報発信していきたい。

魅力を誰にどのように伝えていくかが肝要なので、こうした会議の場で、地域の魅力がどういったところなのか情報共有をしながら、情報発信していきたい。

デジタル田園都市国家構想総合戦略に移行していく中で、地域ビジョンを作っていくという話があったが、そこで地域の目指す姿というものを共有できたらよいのではないかと考えている。

○市長 地域ビジョンの中に観光の話も入れていきたいと思っております。

○N 構成員 転入者・転出者アンケート結果について、転入も転出も1位が就職・転職となっており、地域が活性化するには仕事が最重要。島田市産業支援センターの運営で、スタートアップ支援と中小企業の課題解決支援を引き続きやっていきたい。産業の創出の支援も今後必要になってくるので、産業支援センターで取組をお願いしたい。

○○ 構成員 放課後児童クラブについて、利用できるかどうかギリギリまで分からず、不安な声が聞こえてくる。そういうことも2人目を生むという時に、重要な情報。

○市長 2年生の待機児童は、学校の協力や民設民営の放課後児童クラブにも協力をしてもらい、入れるようになりました。今年なぜそういったことになったのかと言うと、例年、新一年生のうち18~20%くらいの率で利用の申し込みがありましたが、今年いきなり25%を超えました。保育園の待機児童は、昨年も今年もゼロになっておりますが、次は放課後児童クラブの待機児童問題が課題となっております。子どもの数を見ると、あと5~6年を過ぎると、後は放課後児童クラブの待機児童もいなくなる傾向にあります。それまでの間、どうやって子どもの居場所を確保するかということをも最優先に、保育園に入っている子どもは、全員放課後児童クラブに入るという考え方で取り組んでいきたいと考えております。おそらく、これから生まれる子どもは確実に放課後児童クラブに入れる時代になるのではないかと思います。

○H 構成員 転出について、団塊の世代が相続に関わってくる。

耕作放棄地や遊休農地になっても用水費や固定資産税、管理責任などが付いてくるため、相続放棄が増えている。  
負債となる資産を引き継がず、新たな土地に住むということが加速度的に進むと思う。  
農地の利用のあり方を、他の産業も含めた目線で検討していただきたい。

○市長

農地、それから山林も同様で、相続の手続きをしない人が増えてきています。  
死後3年以内に相続手続きをしなければなりません。  
国へ寄付することもできるようになりましたが、10年分の管理料を払って寄附をしなければならないため、現実的には寄附する人はいないようです。  
農地を持っているだけで負担が掛かってきます。  
島田市だけで解決できる問題ではありませんが、重要な視点だと思います。  
皆様、ありがとうございました。  
最後に、オブザーバーとしてご参加いただいています、中部地域局の鈴木局長から、本日の会議についてご意見・ご感想などお聞かせいただきたいと思います。

○鈴木局長

県にとっても大変参考になるお話をいただけて、ありがたく思っています。  
人口減少に対してどう対応していくかという話がありますが、都市間で取り合いをしている場合じゃないというのは、その通りだと思います。  
その中で人口減少に歯止めをかけるためには、外国人をしっかりと受け入れることが大事で、外国人が住みやすければ誰もが住みやすい人にやさしい街であるということだと思います。  
国内で取り合いにならないところとしたら首都圏です。  
首都圏からの転出を国も進めています。  
首都圏、特に東京は合計特殊出生率がものすごく低く、地方の若い人たちが行って、そこで働くようになります。  
そういうところに魅力を感じて、行くことを止めることはできませんが、地元へ帰ってくるだとか、地方に来てもらうような、そういった施策は一生懸命打っていくべきだと思います。  
とは言っても、なかなか人口は増えないと思います。  
社会増はあったとしても、自然減は止められないと思います。  
税収が減るのではないかと心配された方もいたと思います。  
住む人を増やすということは難しいかもしれませんが、交流人口を増やすことは無限に増やすことができます。  
1市だけでは限界があるので、周りの市町と協力して、地域の魅力を高めて、来てもらえればいいと思います。  
その中で関心を持って住もうという人も増えてくるかもしれません。  
来年度、総合戦略を改訂するという話がありましたが、今の段階で

国の戦略のポイントを押さえたうえで、来年度の策定方針とスケジュールをはっきり示している市町は少ないと思うので素晴らしいと思います。

デジタルを活用した取組は県内の市町の中でも抜きん出ています。総合計画も住民参加で良いプロセスで計画策定されていました。デジタル田園都市国家構想総合戦略の改訂についても、行政だけでやるのではなくて、市民会議の皆さんがオール島田で取り組んでいくような戦略になると思います。

住民参加のプロセスで新しい総合戦略も作っていただけたらと思います。

今回の改訂は、デジタルを活用したということが、改訂のポイントになってくると思いますが、あくまでデジタルの活用は手段であって、目的は人口減少に歯止めをかけて、地域を元気にしていくことです。目的を見失わないようにしていただきたいと思います。

○市長

本日は、皆様からも大変前向きな意見、ご提案をいただき、とても有意義な情報交換の時間になったと思います。

本日皆様からいただきましたご意見については、今後の事業に生かしてまいります

皆様のご協力により、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。

ありがとうございます。

それでは、会議の進行を事務局へお渡しします。

○市長戦略部長

ありがとうございました。

最後に、来年度の開催について申し上げます。

年度が明けましたら、年間の会議開催スケジュール及び新たな構成員の報告の依頼の通知をさせていただきます。

通知が届きましたら、ご確認、ご対応くださいますようお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして「令和4年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。

本日は、ご多用の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

お気をつけてお帰りください。

～終了（16:58）